

(返還免除申請用) 研究業績書の作成方法

理工学部学生課

【作成上の注意点】

- ・ 本研究業績書の作成日、専攻・課程、専修名、学年、学籍番号、氏名を記入してください。
- ・ つづいて、1. ～10. の項目については下記の記入例により記載してください。項目に記入することがない場合は「(1)なし」と記載してください。
- ・ 研究業績(1. ～8.)の対象期間は **3 ページ目を御確認ください。**
- ・ 作成後、指導教員に内容の確認および署名・捺印をお願いしてください。また、必ず指導教員に署名・捺印いただいたものをPDFにしてください。
- ・ 研究業績書は複数枚にわたっても構いません。
- ・ 研究業績 1.～5.および 7.については、書類提出時に採択が決定していない、申請中のものは記載せず、所定期日までに採択された場合には、研究業績書を含めて変更箇所のある書類一式の差替※をすることによって対応してください。(※2月8日(木)16時45分まで差替可能)
- ・ 指導教員の署名・押印は、コピーや印刷でも構いません。指導教員に会うことが難しい場合は、データでやりとりしたものを添付するなど、工夫してください。

1. 公刊学術論文（最近のものから順に (1)、(2)、(3)・・・と番号を付して記載）

(記入例)

(1) Keio, Taro; Hiyoshi, Jiro; Kimura, Saburo; Mori, Ichiro, Giant nonlinear phase shift at exciton resonance in ZnSe, Appl.Phys.Lett., Vol.60, No.2, pp.192-194, 2023年8月15日掲載 Impact Factor (2023): 3.841.

(ア)査読付論文で掲載済、掲載予定、掲載決定のものを記入

(イ)著者（全員、論文記述順）、論文題目、掲載論文誌名(巻・号・頁)に加えて、「○年×月△日掲載済(既に掲載されている場合)、○年×月△日掲載予定(掲載日が決定している場合)、○年×月△日掲載決定(掲載自体は決定しているが、掲載日は未定の場合)」のいずれかを記載する

(ウ)学術誌のインパクトファクターは Journal Citation Reports を調べ、「Impact Factor : ○○○」と記載。Journal Citation Reports に載っていない学術誌の場合は「Impact Factor : 不明」と記載する

2. 国際会議プロシーディング（ここに記載したものは、次の「3. 国際会議発表」には重複して記載しないこと、発表講演者にはアンダーラインを付すこと）

(記入例)

(1) Jiro Hiyoshi, Taro Keio, Hanako Suzuki, GUI design solution for a monocular, see-through head-mounted display based on users' eye movement characteristics, 15th International Conference on Human – Computer Interaction, pp.102-105, Detroit, USA, 2022年11月15日発表済.

(ア) 著者（全員、論文記述順、発表者に下線を引くこと）、論文題目、発表会議名(主催学会名)、開催地(国)、開催年月日を明記。加えて、「○年×月△日発表済(既に発表している場合)、○年×月△日発表予定(発表日が決定している場合)、○年×月△日発表決定(発表自体は決定しているが、発表日は未定の場合)」のいずれかを追記する。

3. 国際会議発表（上記「2. 国際会議プロシーディング」に記載していない国際会議での発表を記載すること、発表講演者にはアンダーラインを付すこと）

(記入例)

(1) Jiro Hiyoshi, Taro Keio, Hanako Suzuki, Giant Excitonic Optical Nonlinearity in ZnSe, 5th International Conference on II-VI Compound, Detroit, USA, 2023年11月15日発表済.

(ア) 著者(全員、論文記述順、発表者に下線を引くこと)、論文題目、発表会議名(主催学会名)、開催地(国)、開催年月日を明記。加えて、「〇年×月△日発表済(既に発表している場合)、〇年×月△日発表予定(発表日が決定している場合)、〇年×月△日発表決定(発表自体は決定しているが、発表日は未定の場合)」のいずれかを追記する。

4. 国内講演会発表(発表講演者にはアンダーラインを付すこと)

(記入例)

(1) 矢上花子, 慶應太郎, 磁気利用センシングシステムの現状と将来展望, 第 51 回日本〇〇学会, 横浜パシフィコ, 横浜, 2023 年 1 月 15 日発表済.

(ア)発表者(下線を引くこと)・連名者、論文題目、発表会議名(主催学会名)・開催地、開催年月日を明記。それに加え、「〇年×月△日発表済(既に発表している場合)、〇年×月△日発表予定(発表日が決定している場合)、〇年×月△日発表決定(発表自体は決定しているが、発表日は未定の場合)」のいずれかを追記する。

5. 特許(業績に番号を付すこと)

(記入例)

(1) 矢上一郎(50%)、慶應太郎(30%)、鈴木花子(20%)、並列分散制御におけるリアルタイム通信方式, 特願平 9-127876 号(特開平 10-307803 号、特許番号 1234567 号), 2023 年 12 月 15 日公開.

(ア) 発明者全員(それぞれの貢献度%を記入すること)、名称、特許出願番号、公開年月日を記載。

※申請中の場合、業績として記載することはできません。

6. 賞罰(教育研究活動に関するもののみ記入する。また賞罰に番号を付すこと)

(記入例)

(1) 慶應太郎, 〇〇優秀発表賞, 日本〇〇学会, 磁気利用センシングシステムの現状と将来展望(第 51 回日本〇〇学会), 2023 年 1 月 15 日受賞.

その説明: 約 100 名の講演者の中から 5 名が選出され、受賞される

(2) 慶應太郎, 藤原賞, 慶應義塾大学理工学研究科委員長齋木敏治, 手書き文字の個人性特長の定量化ならびにカラーデジタル画像の全自動画像改善法の開発, 2023 年 3 月 29 日受賞.

その説明: 専攻選出の推薦候補者 20 名から理工学研究科で 3 名が選出され、受賞される

(ア) 受賞者、名称、授与した団体名(者)、受賞年月日を記載。受賞者が個人受賞の場合は個人名を、連名受賞の場合は全員の氏名を記載。また、必ず「その説明:」を上記例に倣って記入する。

7. 建築・設計の業績(設計・制作の業績はここに記入する。)

(記入例)

(1) 慶應太郎, 慶應花子, 屋根のない家, 佳作入選, 第 40 回〇×工業建築設計競技, 〇×工業, 2023 年 1 月 15 日.

その説明: 応募作品数 540 件のうち入賞作品 11 点に選出され、最優秀賞・優秀賞に次ぐ佳作に選出され、□△展で展示された。

(2) 慶應太郎, 慶應花子, 壁のない家, 住宅建築, Vo.92. No.10, pp.102-105, 2023 年 2 月 13 日掲載済.

(ア) コンペ等への入選の場合…設計者全員の氏名、作品名、入選(受賞)レベル、催し物名称、主催者(団体)名、年月日を記載。また、必ず「その説明:」を上記例に倣って記入する。

(イ) 定期刊行誌等への掲載の場合…設計者全員の氏名、作品名、掲載誌名(巻・号・頁)に加えて、「〇年×月△日掲載済(既に掲載されている場合)、〇年×月△日掲載予定(掲載日が決定している場合)、〇年×月△日掲載決定(掲載自体は決定しているが、掲載日は未定の場合)」のいずれかを記載する

8. その他の業績 [著書，データベースやソフトウェアなどの著作物（ただし上記 1.~7. に記したものは除く）， KEIO TECHNO MALL，その他上記 1.~7.以外の教育研究活動に関する実績などはここに記載する。論文及び学会での発表により受賞または表彰を受けたことにより給付奨学金や外部資金を獲得した場合もこちらに記載する※。また、日本学術振興会特別研究員に採用された学生（博士のみ記入可能）もここに記載する。なお、修士課程の学生は日本学術振興会特別研究員やJST博士後期課程学生支援プロジェクト（Keio-SPRING）に採用されたことを業績として記載することは不可。]

※日本学生支援機構奨学金の貸与期間中に採用された奨学金しか記載できない。

なお、「論文及び学会での発表により受賞または表彰を受けたことにより」という条件に当てはまらない奨学金の記載は不可。

(記入例)

- (1) 慶應太郎，矢上花子，スポーツにおける大規模データの活用実演，高島屋横浜店(中高生サイエンスフェア会場)，中高生に向けて情報技術の内容を発表，2023年8月1日発表。

(ア)著作、ソフトウェア、コンペ、展示会、その他の活動を記入

(イ)発表者（全員）、発表物の名称・内容、発表出版・発表場所、内容、発表年月日を記載する。

9. 学位取得状況（予定）

(ア)○年×月△日修了、○年×月△日修了予定、○年×月単位取得退学、○年×月在学延長予定、○年×月退学予定のいずれかを記入する

10. 修了後の進路（予定）

(進学の場合) 慶應義塾大学大学院理工学研究科後期博士課程進学

(就職の場合) ○○株式会社

(ア)進学の場合には大学名、大学院名に加えて後期博士課程、修士課程、学士課程のいずれかを記載する

【研究業績書に記載できる業績の対象期間】

- 研究業績(1. ~8.)の対象期間は当該課程における奨学金の貸与期間です。

研究業績書に記載出来る業績の対象期間 ≠ 修士 or 博士課程在籍期間 ですのでご注意ください。

(以下、一例)

入学年月日	奨学金採用年度	業績の対象期間
2022年4月1日	2022(春)	2022年4月1日～申請書類提出日
2022年4月1日	2023(春)	2023年4月1日～申請書類提出日
2022年9月22日	2022(秋)	2022年9月22日～申請書類提出日
2022年9月22日	2023(春)	2023年4月1日～申請書類提出日
2021年4月1日	2021(春)	2021年4月1日～申請書類提出日
2021年4月1日	2022(春)	2022年4月1日～申請書類提出日
2021年9月22日	2021(秋)	2021年9月22日～申請書類提出日
2021年9月22日	2022(春)	2022年4月1日～申請書類提出日

- ただし、年度途中で辞退された方は、奨学金採用時期～辞退月末日まで。

・2023年9月に修了された方は、上記の表の「申請書類提出日」を「2023年9月21日」に読み替えてください。

・休学により奨学金の貸与が休止されていた期間がある場合、休止期間は奨学金の貸与期間に含まれるので、休止期間中に挙げた業績を含めることは可能です。